

座禅や講話で自己見つめて
吉井で県曹洞宗青年会



心静かに座禅に取り組む参加者

県曹洞宗青年会（河村史明会長）の群馬緑陰禅の集いが二十三日、吉井町の仁叟寺で始まり、県内外から参加した四十一人が一泊二日の日程で座禅や寺の作務などに取り組んでいる。

集いは、一般の人にも寺の生活を体験してもらおうと年一回、県内の曹洞宗寺院で開催。若手僧侶の研修も兼ねており、四十五回目の今回は、二十～七十代の男女が参加した。

テーマは「心～自己をみつめる」。参加者は日常のせわしさを忘れて一日二回の座禅を体験し、「生と死をみつめるセミナー」代表で長崎・禅心寺の金子真介住職の講話に耳を傾けていた。

坐禅や講話で自己見つめて 吉井で曹洞宗青年会

県曹洞宗青年会（河村史明会長）の群馬緑陰禅の集いが二十三日、吉井町の仁叟寺で始まり、県内外から参加した四十一人が一泊二日の日程で坐禅や寺の作務などに取り組んでいる。

集いは、一般の人にも寺の生活を体験してもらおうと年一回、県内の曹洞宗寺院で開催。若手僧侶の研修も兼ねており四十五回目の今回は、二十～七十代の男女が参加した。

テーマは「心～自己をみつめる」。参加者は日常のせわしさを忘れて一日二回の座禅を体験し、「生と死をみつめるセミナー」代表で長崎・禅心寺の金子真介住職の講話に耳を傾けていた。